

小田原ガイド協会だより

OGG 第93号

NPO法人
小田原ガイド協会

小田原市城内3-22(〒250-0014)
TEL.0465-22-8800/FAX.0465-22-8814

<http://www.odawara-gaido.com>

巻頭

——小田原市久野に 北条幻庵屋敷跡と伝わる場所がある

特別稿
特寄

幻の「くのゝ城」

小田原市文化財課 佐々木健策

北条幻庵宗哲は伊勢宗瑞の末子であり、成立年不詳の『小田原記』には「幻庵と申すは久野という所に居住ある程に久野幻庵と申す」とある。久野に居住したことから「久野殿」とも呼ばれ、久野北条氏を称したとされる「黒田二〇〇七」。「北条幻庵屋敷跡」とは、こ

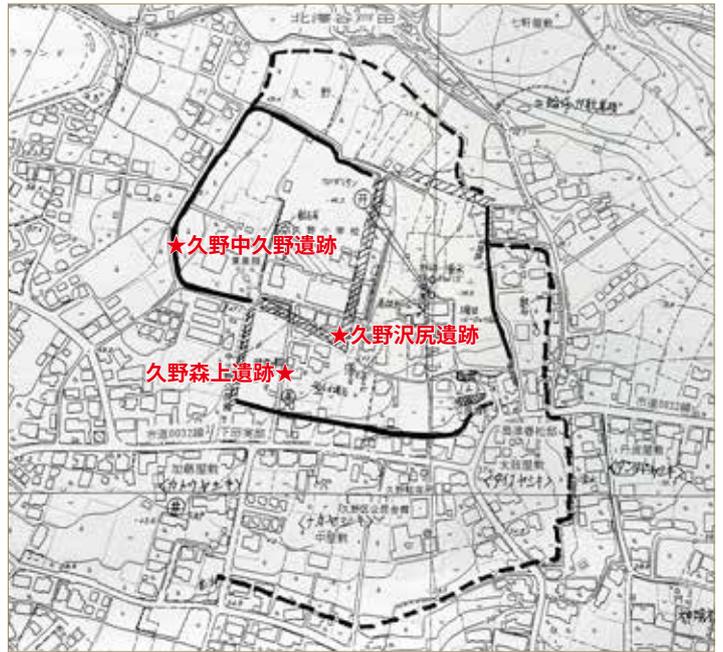
の久野北条氏の本拠とされる場所である。天正一八年(一五九〇)豊臣軍が射程とした「北条家人数覚書」(毛利家文書)に記された「菅根寄斎」こと北条氏隆(幻庵宗哲の孫)の持ち城「くのゝ城」
|| 久野城がこれに相当するものと思われる。



【図1】立木望隆氏による「略図」[立木1983]より

しかし、久野城と言われて、すぐにその姿を思い浮かべられる人は少ないであろう。豊臣軍に認識されていた城館ながら、現在その痕跡は僅かであり、城跡としての明確な遺構を確認することができない幻の城である。
天保一二年(一八四一)成立とされる『新編

相模国風土記稿』には、「小名中宿にあり、瀾三千坪、今白田を開き、祖地となれり、廻りは竹林にて南の方に石垣の形あり、蓋門戸の蹟なるべし、此地の南に續て、中屋鋪太鼓屋敷、東に七軒屋鋪等の字あり、これ幻庵居住の遺名なりと云」とある。すなわち、十九世紀の半ばの時点では、畑となっているおよそ九九一七mの広さの土地が幻庵居住の地として伝えられ、南側には門の跡と考えられる石垣の名残があつて、「中屋鋪」「太鼓屋敷」との小字が、東側には「七軒屋敷」との小字があるとのことである。さらに『新編相模国風土記稿』は、寛文一二年(一六七二)の『足利下郡久野村明細帳』にある「北条幻庵御屋敷百式拾三間二九拾五間程乃構」を引用している。この広さを計算すると、約三八・六一六mとなる。
立木望隆氏は、これらの記載や伝承、聞き取り調査の成果などをもとに、図1のように「北条幻庵屋敷跡」を想定している(立木一九八三)。また、小田原市教育委員会の委託を受けた小田原城郭研究会は、立木氏の検証結果を継承・批判しつつ、図2(次頁)のような想定図を作成している(小田原城郭研究会編一九九九)。い



【図2】小田原城郭研究会による「北条幻庵屋敷範囲想定図」(小田原城郭研究会編 1999)を一部改変

ずれも僅かに残る文献史料や現地調査、聞き取り調査の成果を加味した歴史地理学的検証を踏まえた想定図であるが、考古学的な発掘調査成果が乏しい中での想定であった点は否めない。この時まで考古学的に確認されていた久野城と思しき痕跡は、久野中宿公民館の建設工事に伴って行われた発掘調査で確認されていた堀のみであり(「南館一九八六」、考古学的事実確認がない中での想定復元であるため、些か信憑性に欠ける復元想定図となっている。

両脇に溝が掘られていることであり、同様の形態の堀は小田原周辺では未確認である。堀底面が平滑に仕上げられており、両脇に溝を伴う構造から堀底道として利用されていた可能性も指摘できよう。堀覆土中からは、戦国期の中国製の染付皿や小田原城周辺や小田原北条氏の支城の中心部(主郭や宗教施設)でしか出土していない手づくね成形のかわらけも出土しており、この場所の重要性が指摘できる。

この他、久野中久野遺跡第Ⅱ地

しかしその後、考古学的にも久野城の痕跡と思われる遺構が確認された。場所は、平成二一年に調査が行われた久野沢尻遺跡第Ⅰ地点である(図2)。ここでは上幅約七・二m、下幅約三・三m、深さは約三・五mを測る箱堀が確認されている(写真1)。この堀の最大の特徴は、堀の底部

点で堀と思われる遺構が確認されており、久野森上遺跡第Ⅴ地点では戦国期のかかわりが出土している(図2)。久野沢尻遺跡第Ⅰ地点・久野中久野遺跡第Ⅱ地点で確認した堀は、立木氏が記す「げんあさんの空堀」に該当する可能性がある(立木一九八三)。久野沢尻遺跡第Ⅰ地点の調査成果では、堀中位で宝永火山灰(一七〇七年降灰)が確認されていることから、江戸時代の半ばには堀は埋まりきつていないことがわかり、この堀の名残が「げんあさんさんの空堀」との呼称・伝承の基となったと考えられる。

以上の発見は、立木氏や小田原城郭研究会の調査結果を裏付けるものでもあり、図2の復元想定図の一部が肯定されたことにもなる。幻の「久の、城」確認のきっかけにもなる成果であり、このような調査成果を蓄積・分析する事で、より正確な久野城の姿を明らかにしていく必要がある。



【写真1】久野沢尻遺跡第Ⅰ地点1号堀

【参考文献】

- ・立木望隆(一九八三) 『北条幻庵伝略』 郷土文化研究所
- ・黒田基樹(二〇〇七) 『北条早雲とその一族』 新人物往来社
- ・南館則夫(一九八六) 『北条幻庵居館址の調査』 『埋蔵文化財発掘調査報告書』 小田原市文化財調査報告書21集 小田原市教育委員会

企画ガイド

今年も見頃！

小菅悟志

イワタバコの開花時期を狙い、梅雨どきの雨模様をも想定した企画である。イワタバコは満開で、一日目は晴れたが二日目は雨模様となり、雨を見越した雨天コースに急遽変更。悪天候でもお客様の御目当ては「可憐なイワタバコ」である。

今回は箱根宮ノ下駅から堂ヶ島溪谷を巡るジオ探索のコースである。途中、今が見頃なイワタバコ群生地に辿りつくと、お客様から歓声が上がります。自分もガイドの熱が上がる頃だ。



九十九折のデジャブ坂 (イワタバコ群生)



満開のイワタバコの花を観ることができ、想わず「やれやれ」と安

堵の瞬間である。スマホのシャッターを切る人、スケッチを始める人、と様々。お客様の目が輝いている。花の観賞より感嘆の表情が私には喜ばしいところ。

イワタバコを後に、デジャブ坂から九十九折の岩陰を抜け、堂ヶ島早川溪谷に入る。ここは日本列島の形成から始まる箱根火山の成り立ちを感じられる貴重なジオサイトである。お客様に少しでもジオの魅力を感じていただくために、手製のイラストを準備し、これを頼りに語りかけた。お客様の納得した様子、質問、反応からして四百万年前の箱根を概略理解してくれただろうと想像した。

早川の自然を感じながら溪谷歩きも終盤、本日の一番の難所である石段の急坂にさしかかった。お客様の息も徐々に荒くなり、休憩・水分を取りながらスローペースで底倉温泉へと進む。底倉では蛇骨川（早川支流）の溪谷美を感じながら足湯とは違う「手湯」に浸かり、温泉気分を味わった。今回のコースは、足元が気になる箇所があったが、全員が無事にゴールできたことは喜ばしい限りである。お客様の「楽しさの余り、疲れを感じなかった。来年も是非参加します！」の言葉がうれしかった。

企画ガイド

難攻不落の防御線
いざ総構!!

飯塚忠夫

好天に恵まれた5月28日、佐々木健策氏の講演会資料「総構」を小脇に抱えたお客様が、小田原駅西口三省堂書店前に集いました。

折しも、ようやくコロナ禍から解放され、皆さん歩くぞと明るい笑顔を見せていました。私は二番目の出発。インカムを渡しながら、参加者の興味個所を聞き、重点的に紹介する場所を決めました。

元少年院のかつての塀は、総構の土塁が利用されていたと写真で説明。お客様は「ウーン」と土塁の余りの高さに感心しきりでした。

そして、竜洞院を経て丹羽病院前県道の開通工事中の写真を御見せする。小田原駅前方面の山手橋から続く丘陵のような大きな土塁と堀が街なかにあったこと自体ビックリしていました。

メダカの学校から城下張出に向かう坂道で、既に汗だく。一休み欲しいと思った矢先、民家の門前に真っ赤な花のポトルブラシの木を見て「見たこともない

花」と花談義に暑さも忘れて盛り上がり、ここで給水タイム。城下張出では、向かいの荻窪丘陵の秀吉軍のあまりの近さに驚いていました。

次に、山の神堀切から稲荷森へ向かったが、他の団体客と遭遇し時間配分を心配しました。

いよいよ稲荷森の小道に入り、道の半ばから土塁の上ですと話しながら歩く。ここは四三〇年位前の土塁・堀の地形がそのまま残っていますと説明すると感じ入っている様子でした。



稲荷森

御鐘ノ台大堀切東堀をでたところで、上二重戸張の虎口の質問を受け、場所を示して案内したところ「切立った崖の地形に、よく造ったもの」と感心しきりでした。

そして時間通りに板橋見付に到着。お客様も無事歩き切ったことに満足そうな顔をされていました。また、お客様から冷えたゼリー飲料を頂戴したことを嬉しく思いました。

企画ガイド

総構海側コース
「My引き出し」を求めて

川目範男

総構海側コースの特に海岸線の北条稻荷から荒久台跡までの約2kmは現存遺構がほとんど無く、話を繋げる題材が必要だが、引き出しの浅いガイド一年目の私には難コースです。

話題作りに頭を悩ましていた時、ネットで「一升石」に関する記事を見つけました。

「一升石」とは、京都所司代時代の久保忠真公が京都仙洞御所の州浜造営に際し、湯河原吉浜の玉石を、領民から石一個を米一升の代価で集めて約十一万個も献上した故事から名付けられたものです。この「一升石」という名前の和菓子が安齋小路の「右京」で販売しているとのこと。早速「右京」で買い求めたところ、その色・形は玉石を模してあり、まさしく「一升石」の名前にふさわしい和菓子でした。更に、店名が北条氏重臣の「朝倉右京」の屋敷跡に建てられたことに由来する事を知りました。

事前の勉強会で、この「My引き

出し」を紹介した結果、関心をもっていたいただき、予定の時間をオーバーしてしまいました。

本番は五月十七日、佐々木建築氏の「総構」講演会の後、小田原駅西口から。私は三番目で、一般参加者は単独参加の四名でした。

「出だしが肝心」と集中し順調に進行しましたが、一時間程で心配していた雨が降り出しました。難題の海岸線で、詰め込んだ「My引き出し」を出しましたが、良い反応が得られず実力不足を感じながら、ほぼ時間通りに板橋見付にゴール。でも、解散時には皆様から元氣よい挨拶とお礼の言葉をいただき、難コースを無事終了した安堵感と雰囲気を感じ上げた難しさを感じたガイドでした。



京都 仙洞御所 州浜

OB会コラム

中村宗平年齢考

榎本保美

中村郷の豪族中村一族は頼朝拳兵に一族挙り加担したが大河ドラマ『鎌倉殿の十三人』では土肥實平が端役で少し出るだけで期待外れである。ここでは拳兵に参加しなかった中村莊司平宗平の年齢を推考してみたい。

宗平の父は承暦三年（一〇七九）八月に為季に殺害された笠間押領使の景平が通説である。三浦和田文書にも殺されたのは宗平の父常宗とある。斯様に為季に殺された景平は常宗であることが通説である。

仮に宗平誕生を父常宗が殺害された承暦三年とすると没年の建久六年（一一九五）から逆算して享年は百十六歳である。頼朝拳兵の治承四年（一一八〇）の時は百一歳で出兵は覚束ない年齢である。

宗平が歴史に初めて登場する天養元年（一一四四）の大庭御厨乱入事件当時は六十五歳で血氣盛んな老人である。承暦三年以前の誕生であれば人間の寿命の限界百二十歳を超えるギネス物の年齢で夢のような話である。

この度、右記のように「OB会コラム」と題し、当ガイド協会を勇退された先輩のコーナーを設けました。

今回は、平成十五年度に入会し、同二十二年度から二期四年に渡り第三代会長を勤められた協会に貢献された、榎本保美さんのご寄稿です。

ガイド協会の方へ

急募!!

企画・編集委員

OGO(当誌/季刊)の制作に従事していただきます

- ・経験値の有無 不問
 - ・それなりのPCスキル
 - ・そこそこのリテラシー
- OGOに新風を……

*ご興味のある方は
編集委員にお声掛けください

令和4年度賛助会員

賛助会員のお店は皆様をお待ちしています！

賛助会員の皆様にはガイド協会の活動に賛同しご支援を頂いています。

賛助会員の詳細は小田原ガイド協会HPをクリックしてください。

<http://www.odawara-gaido.com>

☎ 0465-

☎ 0465-

朝ドレファ〜ミハルネ店 23-3100	せきしん運輸 42-7375
鯨 壺 北 條 080-5465-0066	田 毎 24-3030
伊 勢 屋 22-3378	田中屋本店 22-5545
ういろう 24-0560	だるま料理店 22-4128
魚市場食堂 23-3818	欄干橋ちん里う 22-1547
江 嶋 22-1661	露木木工所 22-5995
小田原種秀本店 22-6238	東 崑 庵 22-4657
小田原箱根商工会議所 23-1811	烏 かつ 楼 22-2078
籠 清 22-0251	菜 の 花 24-5688
籠 常 商 店 23-1807	箱根屋酒店 22-6416
柏木美術鑄物研究所 22-4328	小田原早川漁村 24-7800
カネタ前田商店 23-4741	平 井 書 店 22-5370
甘味処 鎌 倉 20-4475	松崎屋陶器店 24-2479
居酒屋 金 時 23-0721	マツシタ靴店 24-2233
食事処 幸 繁 22-5155	丸 う 23-0830
グリル 木の实 22-2912	万 葉 の 湯 23-1126
さがみ信用金庫 24-3161	柳屋ベーカリー 23-2342
志村屋米穀店 24-2224	山市湯川商店 22-5637
杉 兼 商 店 22-5051	山 安 21-1137
鈴木製館所 22-3520	R Y O 20-0077
鈴廣かまぼこ 22-2333	【50音順】